

トビ

Milvus migrans

タカ科・留鳥



トビ

名前の由来

トビが空高く飛ぶことから「飛び」という名が付いたという。トンビともいう。漢字名：鳶

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当無し

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オス58.5cm、メス68.5cm。翼を開いたときの端から端の長さ157～162cm。

トビは日本でみられるタカ科の中で唯一尾の形が凹型（広げると三味線のバチ形）。全身褐色で翼の下面翼角（翼前縁の前に突き出たところ）付近に白い斑がある。

声：木の枝や屋根の上などにとまり「ピーーヒョロロロ」と鳴き、上昇気流に乗って上空を舞っているときにも良くなく。タカ類の中で最もよく鳴く鳥で、四季を通じて鳴くが、春頃に一番よく鳴くという。

飛び方：両方の翼を水平に保って上昇気流を捕まえ、上空を円を描くように舞い、時々ゆっくりした羽ばたきを交えて軽々と飛ぶ。

翼や開いた尾羽の角度を細かく変えながら、漂うように飛んでいることが多い。

類似種と見分け方：他のタカ類、特にチュウヒのメスやノスリ。

トビの尾の形は凹型（広げると三味線のバチ形）であるのに対して、オオワシのくさび形の尾や、ノスリ等の扇型の尾の様に他の猛禽類の尾は凸型なので他の種と間違える事は少ない。

ノスリは下面が白く、翼角（翼前縁の前に突き出たところ）

に褐色のパッチ状の斑がある。

チュウヒのメスは全身茶褐色だが、下面の翼角に白いパッチ状斑は無い。



トビ。尾羽が凹状になっている（左）
飛んでいるときには尾羽は開いて三味線のバチ状になり、開いた翼の下面に白いパッチもようがある（円内）

生息環境・分布

低地～山地の河川、湖沼、農耕地、海岸など。山地の樹林には少ない。

分布：ユーラシア大陸の亜寒帯以南、アフリカの一部、オーストラリアなどに広く繁殖地を持つ。

日本では、九州以北に留鳥として分布。寒地のものは冬に暖地へ移動する。

北海道では、全域に留鳥（一部夏鳥）として、平地～山地の河川、湖沼、農耕地、海岸などに生息する。

十勝では留鳥（一部夏鳥）として平地～山地の河川、湖沼、農耕地、海岸などに生息する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
					繁殖							

食性・他生物との関わり

主に獣や魚などの屍肉食だが、小動物、鳥のヒナなどを襲う事もある。生きた魚やネズミ、ヘビ、カエルといった生きた小動物もかなり捕るようだ。

地上や水面に餌を見つけると、急降下して足でさらうよう

に捕る。

ゴミ捨て場や漁港などには大群でいる。

他の生物に捕食されることはあまりない。

繁殖生態

繁殖期は2～9月(北海道では3月から)、一夫一妻で繁殖する。つがいはなわばりを持つが、なわばりの大きさは様々であるという。(→興味深い話の項参照)

巣は樹上に作られることが多く、巣作りはオスメス共同で行われる。枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。(→興味深い話の項参照)

3月下旬～4月ごろに産卵し、産卵数は普通2～3個。卵

は主にメスが抱き、オスはそのメスに給餌をするという。約30日でヒナがかえり、ふ化したのヒナは幼綿羽に覆われ、メスによって抱かれる。オスメス共同で給餌するが、ヒナの餌もメスの餌もほとんどオスが捕るともいう。

40～50日で巣立つが、遅れてふ化したヒナが83日後に巣立った例もあるという。

巣立ち後もしばらくは親が給餌をするという。

興味深い話

■猛禽類の中では日本で最も数が多く、一般的な猛禽類であるが、他の猛禽類と異なり主に死肉を食べる。ゴミ処理場や漁港など、餌となるものが多い場所では集団でいることも多い。

■標識調査では5年11ヶ月生存の記録がある。

■尾と翼が長い大型のタカだが、体重は軽いという。

■なわばりの大きさは様々で、集団的に営巣しているところでは巣間距離が50～180m、ヨーロッパでは直径約600mのなわばりを持つものもいるといい、十勝地方での最短巣間距離は平均約2kmであるという。

■木の枝を組み合わせて皿形の巣をかけるが、巣の材料に軍手やボロボロ布などを使用している事も多い。条件の良い場所では多数の巣が集中する場合もある。

■普通は樹上に巣を作るが、まれに高圧線鉄塔のような人工物に営巣した例があるという。

■遅れて生まれたヒナは先にふ化したヒナに攻撃され、や

がて給餌時にもあまり鳴かなくなってしまう。そして先に生まれたヒナが満腹して餌に興味を示さなくなると、突然激しく餌を求めるといふ。

■このため後に生まれたヒナは餌が少ないときには餓死したり、場合によっては食べられたりもする。これはタカの仲間一般にある。ただしトビの場合は死肉を餌にするので、すべてのヒナが巣立つことが多いという。

■繁殖期以外には集団でねぐらをとる。

■十勝地方のアイヌ語では「ヤトッタ」という。



トビの幼鳥。
調査のために一時的に
捕獲されたもの

ので、ある程度太い木があることが必要。

配慮事項

低地から山地までの広い範囲に生息し、段丘林や河畔林などの高木にも営巣している。直径数十cmになる大きな巣な

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「図鑑 日本のワシタカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、文一総合出版 1995

「日本動物大百科 第3巻 鳥類 I」日高敏隆監修、平凡社 1996

「鳥類標識調査報告書」(財)山階鳥類研究所 1994

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996

「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

「様似アイヌ言語文化研究所」

<http://city.hokkai.or.jp/~ayaedu/samawo/samawoin.html>

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一 (未発表)

羽田健三・小泉光弘 (1965a) トビの生活史に関する研究. I 繁殖期. 日生態会誌, 15: 199-208.

羽田健三・小泉光弘 (1965b) トビの生活史に関する研究. I 繁殖期(承前). 日生態会誌, 15: 221-228.

岩見恭子・池田翔・山崎里実 (1998) 高圧線鉄塔でのトビの営巣例. Strix, 16: 160-162.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ